理科(物理･化学･生物･地学)　神戸大学（前期）

＜全体分析＞

試験時間　60　分

解答形式
記述・論述・選択・計算

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点
固体地球分野が出題されなかった。

その他トピックス
受験生にとって既知ではない式を与えて計算させる形の計算問題が出題された。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･ﾃｰﾏ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記述 論述	地質断面図	地学	問１の［ウ］に関しては，地層断面は奥行き方向にそのまま続く，との問題の条件から，横ずれ断層と答えることは不適当であろう。 問１と問２を確実に正解し，問３と問４をいかに手際よくまとめられるかがポイントである。 レポートのような問題文での出題は，珍しい。	標準
Ⅱ	選択 計算 記述	地球上の水	地学	選択の問題が多いが，特に問 1 を数値で答えないように注意すること。 問 3 は，地表から大気へ熱伝導により移動する熱輸送量よりも水の蒸発や降水に伴う潜熱輸送の量が大きいため C が誤りである。 問５の［キ］は，１海域を答えたら可であろう。	易
Ⅲ	計算 論述	銀河系	地学	問題で与えられた式が初めて見るものだったかもしれないが，落ち着いて計算すれば決して解けないものではないだろう。 問 3 は，ケプラーの第三法則の計算をする前に，近点距離と離心率から平均距離を求めなければならないことに注意が必要である。	やや難

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

今回はやや少なめとも言えるが，神戸大学の地学の特徴は論述問題の比率の高さにあり，加えて計算問題も確実に出題される。教科書に載っている公式が出題された場合に備え，計算練習を繰り返して正確性を高めるようにしよう。また，有効数字の指定にも注意が必要である。
もちろん空欄補充などの記述の形式の問題も大事である。記述形式の問題は，全問正解して得点の取りこぼしが発生しないようにすべきである。教科書などにしっかりと目を通しておこう。
そして，論述問題こそが得点差がつく問題である。問題を数多くこなし，素早く文章化ができることを目指そう。

© 河合塾　2024 年